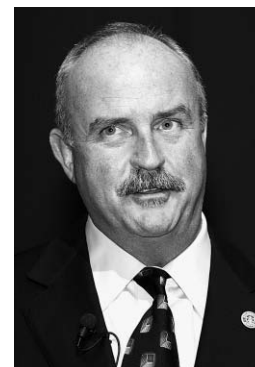


ジャパン・ソサエティー創立100周年記念シンポジウム CSRイノベーション——社会貢献と企業変革の融合

社会に溶け込み、ともに伸びる企業のCSR活動

ジャパン・ソサエティー(米・ニューヨーク)は、1907年の設立以来100年にわたり、民間非営利の日米交流団体として幅広い活動を続けている。さきごろ、創立100周年記念事業「JAPAN100」の一環として、シンポジウム「CSRイノベーション～社会貢献と企業変革の融合」(主催：日本経済新聞社、ジャパン・ソサエティー、国際交流基金日米センター)を東京・千代田の日経ホールで開催した。21世紀の企業の社会的責任(CSR)の思想と手法はどのように変革を遂げていくのか。CSRを最終利益に取り込む方法はあるのか。日米の専門家やイノベーターたちが今後のあるべきモデルを熱く語った。



スターバックス
コーポレーションCOO
(最高執行責任者)
マーティン・コールズ氏

基調講演

生産者の暮らし安定手助け 地域・顧客と喜び分かち合う

当社の経営は、コーヒービジネスの枠を超えた「リアルビジネス」である。コーヒー豆の生産から販売店舗にかかわるすべての人材を「パートナー」と呼び、その連携は企業活動の核となっている。利益追求と社会的貢献は密接な関係にあり、CSRの対象は生産地から、販売、店舗のコミュニティにまで及ぶ。

「社会、環境、経済に関する二十八項目の独自のガイドライン「C.A.F.E.プラクティス」を設けるなど、サプライヤーとともに利益を上げる関係を築き上げている。

顧客に最高のコーヒーとフレンドリーなサービスを、世界中一万五千の店舗でも楽しんでもらうには、各店舗のパートナーが価値観を共有しながら働ける環境を作ることが不可欠だ。店舗エリアの活性化活動は、パートナーたちに地域の一員としての意識を持たせ、地域経済の発展にもつながる。当社のパートナーは、地域社会につながる精神をほぐしながら、生き生きと活動を展開している。年間を通してグリーンアップ活動や種まきプログラムなどの環境活動、スペシャルティコーヒーや地域イベントのサポートなど、またパートナーが自主的に考えた地域貢献活動も支援している。

「社会、環境、経済に関する二十八項目の独自のガイドライン「C.A.F.E.プラクティス」を設けるなど、サプライヤーとともに利益を上げる関係を築き上げている。



マイクロソフト代表執行役
社長/マイクロソフトコーポレーション
コーポレートバイスプレジデント
ダレン・ヒューストン氏

クロージングセッション

一人ひとりの可能性 最大限に引き出す支援を

私が日本で社長に就任した時、企業や自治体から当社は「顔が見えない会社」と言われ、大きなショックを受けた。オフィスや家庭にパソコンが普及してきている。IT大国日本で、成功を持続させるために踏むべき次のステップは何か？ 答えを模索し続け、日本のIT社会は、その普及とは裏腹に、あらゆる場面で「ギャップ」を抱えていることに気がついた。私たちはまだ社会を変えることができると、この時思った。例えば、日本の子どもは、家庭ではほかの先進諸国の子ども

に比べて所有パソコン数が多いのに、教育現場でアクセスできないパソコンの平均台数は欧米のわずか半分程度に過ぎない。ITは重要な学習ツールなのに、それが現場でフルに活用されていない場合も多い。この状況を踏まえ、当社は教師のIT知識の向上や、学習におけるパソコンの活用を目指した活動を、教育機関や自治体と連携して取り組んでいる。

申告は、アメリカでは全体の約半分が利用しているが、日本ではわずか三割以下だ。業務や予算の効率を上げるためにも、当社のITを行政サービスに役立てていただければ、より積極的に支援活動を行っている。同時にインターネットを使った犯罪解決の強化もバックアップしている。

パネルディスカッション

田坂 企業が利益の一部を社会貢献のために使うとき、単なる「寄付」ではなく「社会的投資」という新たな手法が生まれている。この事業は現在年間約二千万人のマラリア予防を実現している。市民一人当たり年間平均十日間はマラリアで動けなかった状況が改善したことで、現地の労働生産性の向上を経済の活性化にも貢献している。

林 当社ではCSRを「企業市民活動」と呼んでいる。活動の二本柱の一つは、誰もがIT(情報技術)の恩恵を享受できる社会の

寄付を超えた社会的投資を 相互に学ぶ「企業市民活動」

林 当社ではCSRを「企業市民活動」と呼んでいる。活動の二本柱の一つは、誰もがIT(情報技術)の恩恵を享受できる社会の

林 確かに、異なる立場からの多角的な支援ができていくと、組織の枠を超えた

田坂 企業として、利益追求と社会貢献を両立する新たな手法は何か？

出陣者
アキメーン・ワグダ代表
シニア・アドバイザー
マイクログソフト
Pillar J推進本部
企業市民活動推進部長

林 眞理氏
ストーン・ヤマシタ・パートナーズ
会長 キース・ヤマシタ氏

田坂 広志氏
コーデイン・パートナーズ
多摩大学大学院教授
シニア・アドバイザー



ノヴォグワッツ氏



ヤマシタ氏



林氏



田坂氏

ヤマシタ 従来の考え方では、顧客価値を第一に置き、余裕が出たときに社会価値を追求するのが主流だった。しかし今後は、利益と社会貢献は別物ではなく一つのものとして追求していくことが重要である。

田坂 企業として、利益追求と社会貢献を両立する新たな手法は何か？

田坂 企業として、利益追求と社会貢献を両立する新たな手法は何か？

田坂 企業として、利益追求と社会貢献を両立する新たな手法は何か？

田坂 企業として、利益追求と社会貢献を両立する新たな手法は何か？

広告

企画・制作=日本経済新聞社広告局

このシンポジウムは、ジャパン・ソサエティーが創立100周年にあたって始動した日米イノベーターズ・ネットワークの活動の一環です。当ネットワークは、今後の日米関係で新しい役割を担うイノベータータイプで創造力に富んだ実践家により構成されています。本シンポジウム開催にあたり、国際交流基金日米センター、シティグループ、日米友好基金、ワズワース夫妻、R&Rコンサルティング、山本通隆氏に助成をいただきました。また国際航空便は、コンチネンタル航空、全日本空輸にご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。——ジャパン・ソサエティー